

立教大学校友会報

<http://www.rikkyo.ac.jp/koyu/>

可能性を広げる「自由の学府」

新総長就任インタビュー



【プロフィール】

1953年生まれ。1976年東京大学法学部卒業。法学博士。1980年立教大学法学部助手、81年同講師、83年同助教授、90年4月より立教大学法学部法学科教授、96年4月より同政治学科教授。2002年法学部長。2010年4月より第19代総長就任。専門は欧州政治思想史。主著に『ジャン＝ジャック・ルソー論』。

—大学と校友との関わりについてはどうにお考えでしょうか。

大学は教員・学生・職員だけでなく、校友や保護者、地域の方など、多くの人との繋がりでできています。なかでも立教を卒業して、立教を大事だと思ってくださる校友は重要なサポーターです。それに、世間が一般的に想像する「立教大学」は当然、卒業生を含めたイメージです。そういう意味で校友は立教大学を作り上げているメンバーです。色々な形で力になっていただき本当にありがたいと思っています。

—最後に、社会は立教に何を期待しているとのお考えでしょうか。

個々の企業や団体を越えて、社会のこれからを支えることができる人材を求めていると思います。他の大学もそうだと思いますが、特に立教の場合は、よき市民であることや、ミッションに積極的に関わり、周囲の能力を見出し、育てていく力を求められていると思います。共同性

した多様性を受け入れるしなやかな知恵を持った人間をつくるモデルにしていきたいです。



▲ラグビー部の学生と

—体育会についてはどのようにお考えですか。

ラグビー部長を経験するなかで、立教大学体育会が持っているアマチュアリズムを大事にする一方で、強く、活性化させることが必要だと感じました。スポーツには人を育てる力があります。立教のスポーツはプロを養成するものではなく、人を育てるものであってほしい。また、学生は校歌を歌ったり、神宮や秩父宮に行ったりする機会をもっと持てほしい。そういった経験の共有が立教らしさに繋がっていくと思います。校友のみならず、ぜひ応援にいらしてください。

う機会はこれから大いに増えていくと思います。もちろん大学としても校友へどのようなサービスを提供できるのかは、絶えず考えていかなければなりません。

インタビュー後記

特にラグビーのお話の中で、スポーツを通してリーダーやフォロワーとしての意識、集団の中での役割分担、瞬間の判断力が養われるというお話が印象的でした。新総長の熱意に触れ、立教がますます豊かな人間性を育む場として発展していくことに期待が膨らみました。

大演 恵 H6史

学生と連れ立って飲みにいったお話やローリング・ストーンズなど趣味である音楽のお話、東大の学生時代のお話など、紙面の都合上お人柄に迫るようなエピソードをこ紹介できないのが大変残念です。インタビュー後、立教がもつ可能性に思いをめぐらせました。

西村紗智 H16教



をうまく作り出すための共生の能力こそ、社会が立教に期待するものではないでしょうか。

私が大学2年生の頃だった。立教に入学し2年目の春を迎え、大学生活が一番楽しくなりかけていた頃だ。家庭の事情から大学の学費が払えないという状況になってしまった。当時アルバイトはしていたものの、とてもアルバイトだけで賄える金額でもなく、ましてや急な話だ。一時は退学まで考えたが、駄目で元々と思い、大学の窓口で自分の置かれている窮状を相談してみることになった。大学の担当者は、私の話を真剣になって聞き、「学部貸与奨学金」の存在を教えてくださいました。「学部貸与奨学金」はたしか学費の半額程度の奨学金を貸与してくれ、それを卒業後無利子で返還するという制度だったと思う。結局私はその奨学金に助けられ、退学することもなく、立教に通い続けることができた。しかも4年生まで奨学金の受給を受けることができたのである。どんなに感謝したことだろうか。

そんなことを思い出したのは、先日ある都立高校の先生と話をしている中で、大学進学への希望を持ちながら家庭の事情で大学進学を断念せざるを得ない生徒が増えているということが、話題になったことがきっかけだった。経済不況が続く世の中である。そのような事情の高校生も増えているに違いない。そんな中、立教大学では2010年度から奨学金制度を大幅に拡充し、入試においても奨学金制度を導入した。キリスト教に基づく立教精神をまさに具現化する施策ではないだろうか。奨学金の効用は入学時・在学時だけではなく、卒業後もずっと学恩として残っていくのである。私がそうであるように。

(指物敏一 61法)



ST. PAUL'S ALUMNI

セントポール



■発行所
立教大学校友会
〒171-8501
豊島区西池袋3-34-1
■電話 03(3985)2634
■発行人 江草 忠敬
■編集人 石崎 孟

主なニュース

- 8面 入学式・卒業式
- 4面 2010年度地区校友の集い開催日程決定！
- 2面 地域立教会を訪ねて第18回 広島立教会



時計台